

学校だより

Vol.

118

2025年5月発行
(2024.10~2025.4)

Contents

- | | | | |
|----|--------------------|----|----------|
| 02 | 専攻科修了式・
本科卒業式告辞 | 20 | TOPICS |
| 04 | 祝 卒業・修了 | 24 | コンテスト表彰 |
| 14 | 卒業生・修了生の進路 | 25 | 同窓会の活動 |
| 15 | 学生会 | 26 | 学生の活躍 |
| 16 | 退職者挨拶 | 29 | 新任教職員紹介 |
| 19 | 磐陽祭2024を開催 | 30 | 入学式 校長式辞 |
| | | 31 | 入学式代表挨拶 |



独立行政法人国立高等専門学校機構

福島工業高等専門学校

National Institute of Technology (KOSEN), Fukushima College



第20回専攻科修了証書授与式 第59回卒業証書授与式 告辞



福島工業高等専門学校
校長

田口 重憲

修了生・卒業生の皆さん、修了・卒業おめでとうございます。

春を感じさせる穏やかな日も多くなり、学生の皆さんが新たな道を歩み始める時が参りました。本日、保護者の皆様もお迎えして、卒業式が挙行できることを、お集りの皆様と共に喜びたいと思います。

この度、本校を巣立つのは、専攻科産業技術システム工学専攻16名、及びビジネスコミュニケーション学専攻4名の修了生計20名、並びに、本科機械システム工学科35名、電気電子システム工学科41名、化学・バイオ工学科38名、都市システム工学科40名、ビジネスコミュニケーション学科34名の卒業生計188名です。

修了生・卒業生の保護者・御家族の皆様には、本日御卒業のお子様の成長を温かく見守り、また、導き、このように立派に育て上げられましたことに、敬意を表しますとともに、心からお祝いを申し上げます。

さて、修了生・卒業生の皆さん、皆さんがこの度卒業・修了を迎えることができるのは、これまで、日々、勉学に励み、努力を続けてきた結果です。在学中はコロナ禍で遠隔授業、大会・イベントの制限があり、様々な経験を積む、楽しむ機会が少なかったのではないかと考え、皆さんの記憶に残ってくれればと思い「光と音の祭典」をはじめ、様々なイベントを開催しました。これらが皆さんの思い出として残ってくれれば、本校の校長として、大変うれしく思います。

学生の皆さん、皆さんのここまでの成長は、ご家族の愛情と支援、教職員・部活動の指導者などの熱心な指導に支えられてのものであります。皆さんを育み共に歩み、時には共に困難を乗り越えてくれたすべての方に、感謝の気持ちを忘れないでください。



さて、社会は大きな変動の時期を迎えています。経済的な面で国際的結びつきが強くなる一方、大国の行動が既存の経済システムに対し大きな影響を与えており、不透明さが増しています。AIの発達には社会の在り方を変革するものとなりそうですし、AIの普及によりエネルギー消費量が増加する見込みです。その中で、カーボンニュートラルをどのように進めるか、自動運転、ロボット、ドローンなどが少子高齢化による「社会構造」の変化にどのように貢献するか、科学技術も、これからの社会・生活を大きく変えていくことになります。

これからの日本、そして社会を築き上げるのは皆さん自身です。自らの「意志」を持って、高専で学んだことを生かし、これからの道を歩んで頂きたいと思います。また、高専を離れても、ふるさと、福島復興に向けた思いを持ち続けてくれることをお願いします。

修了生・卒業生の皆さん、皆さんの旅立ちにあたって、皆さんに心がけてほしいことを三つ申し上げます。

それは、目標を持つこと、目標達成のための手段方法を構想すること、仲間を大切にすること、の三点です。

まず一点目ですが、「目標を持つ」ということです。

皆さん、「なりたい自分」を考えてください。それを目標として、日々努力することが大切です。

二点目は、「目標の達成のために、どのような取組をするか」です。目標は山の頂のようなものですが、頂上を目指すルートはいくつもあります。目標の実現のため自分に合った手段方法を考えてください。一つのルートがだめだからとあきらめず、効率的に目標を達成するため、情報収集能力を高め、知識を蓄え、分析し、努力を続けてほしいと思います。

三点目は、「仲間を大切にすること」です。一人でできることには限りがあります。特に困ったときに、相談できる仲間をもちつづけてください。高専での仲間を大事にするとともに、新しい活躍の場でも、仲間づくりに心がけてください。

以上、三点を心がけてください。

本校における五年間、七年間の経験で、皆さんには、高専生としての、スピリッツが育まれたことと思います。皆さんの活躍の場は世界です。これからも英語等の語学の学習を継続するとともに、培われた福島高専スピリッツを生かし、皆さんのこれからの人生が、幸多いものであることを祈念して告辞と致します。

機械システム工学科

Mechanical System Engineering



ご卒業おめでとうございます！

5年担任 高橋 章

福島高専に入学して見事に卒業されたということに敬意を表します。今風に言うところリスペクトします。そして、これからの皆さんの一助になれば幸いです。私の座右の銘などをお伝えしたいと思います。

まずは、「人事を尽くして天命を待つ」です。この文章を書きながら知ったのですが、「人事天命」という四字熟語のようです。精一杯の努力をして、あとは運命に任せるという意味で使っています。いつどこから入手したか不明なのですが、中学卒業の頃は使っていました。何かを成し遂げるためには精一杯の努力をしますが、思い通りにいかないこともあります。それでも努力を怠らないつもりでいます。

つぎは、流行語となった「いつやるか？ 今でしょ！」です。最近、妻と防災の話をして、非常時用トイレとキャンプ用のテントをすぐに購入するといったように実践しています。

もうすぐ与えられた文字数になってしまいますので、これ以上のことは別の機会にしたいと思います。もうひとつだけ、健康第一で。

1807日間のできごと

5年 山崎 一星

2020年4月3日の金曜日。地元の郡山を飛び出し、いわきへ来たあの日。私は受験番号と入学後の学籍番号(20032)が一致する偶然と共に入学しました。

この5年を振り返るとコロナの影響で簡易化された入学式を受け、クラスメイトと会えない遠隔授業から始まった1年生。前期と後期の期末試験がコロナで潰れ、内心喜んだ2年生。特に私はこの1、2年次に寮内における先輩からのご指導のおかげでとても成長できました。そして応用物理Ⅰの手書きレポートで苦しんだ3年生。8限が連続し疲弊していた4年生。進路実現・卒業研究に追われた5年生。5年間寮生だったこともあり、とてつもなく濃密な時間でした。素晴らしいクラスメイトと共に卒業を迎えられて非常に嬉しく思います。卒業後は離れ離れになり、寂しいですがいつかまた必ず会いましょう。

最後に、元担任の上野代明子先生や高橋章先生、宮本拓歩先生をはじめとする教職員の方々、友人、家族のおかげで楽しい学生生活を送ることができました。5年間ありがとうございました。

電気電子システム工学科

Electrical and Electronic System Engineering



社会へ踏み出す皆さんへ

5年担任 植 英 規

卒業おめでとうございます。思い返せば、皆さんの高専生活はwebでの遠隔授業でスタートしました。社会が大きく変わっていった中、学生生活でも大変なことや不便なことが多々あったと思いますが、皆さんが思い描いてきた未来（なりたい自分）に少しでも近づくことができたでしょうか？

福島高専で様々な知識や技術を学んだ皆さんは、周囲の大きな期待を背負い、社会へ踏み出していきます。時には思いがけない困難に直面することもあるかと思いますが、そのときは本校で学んだ知識や技術、経験を支えに乗り越えてください。皆さんが本校で得た「何か」にはその力があると信じています。

進学・就職といった進路によらず、4月からの新しい生活は、皆さんにとって久しぶりの「新人」です。新しい場所でもこれまでと同様に、多くの人に出会い、支えられていくことでしょう。周囲への感謝の気持ちを忘れずに、いずれ周囲を支えられる頼れる人になってください。

福島高専で学んだこの期間が、皆さんにとって有意義であったことを願っています。

5年 坂 本 冬 威

福島高専に入学したあの日から早5年になります。

まず始めに、この5年間、ご指導ご鞭撻をしてくださった先生方への感謝を述べさせていただきます。大変お世話になりました。ご教授くださった数々の知識や技術をこれから先、活かしていけるよう努力を続けて参ります。

次に、仲良くしてくださったクラスの皆さん、レポートや課題、試験勉強で困ったときには相談し、磐陽祭・体育祭では互いに応援し合いました。そのどこか「戦友」のような関係性に何度も救われてきました。今まで本当にありがとうございました。

卒業後はそれぞれ、異なる道に進むこととなります。クラスの皆さんのご活躍を心から願うとともに、自分自身も更なる成長を目指し研鑽して参ります。あっという間に終わってしまった5年間でしたが、この学校でよかったと思える楽しい5年間でした。

最後に、お世話になった教職員、関係者の皆様、そしてクラスの皆さん、重ねて本当にありがとうございました。



化学・バイオ工学科卒業生の皆さんへ

5年担任 梅澤 洋史

卒業おめでとうございます。

4年次から皆さんの担任となり、もうすぐ2年が経とうとしています。授業では3年次より顔を合わせており、当初の印象は活気のあるクラスでした。しかし、朝が弱い？学生が多く、連絡事項がなかなか全員に伝わらないなど苦労することもありました。一方で大きな問題を起こす学生は皆無で、4年次に一泊二日で関東方面へ行った大学・工場見学は非常に楽しい思い出となっています。

さて、今後の皆さんの進路は進学と就職が大体半々となりました。就職する人はこれまでの環境が大きく変わります。とにかくわからないことは周りの上司や先輩に聞く等してできるだけ早く新しい環境に慣れてください。最初が肝心です。大学進学の皆さんも高専在籍時と異なり、自分のことは自己責任で行うことが多くなります。早く仲の良い友人を作って環境に適応してください。

数年後に、皆さんの成長した姿を見られることを楽しみにしています。

5年 蛭田 帆香

高専入学からあっという間に5年が経ってしまいました。コロナウイルス大流行の中入学し、すべての授業がリモートで始まるというとてもイレギュラーな学年でしたが、こうして卒業の日を迎えられることを嬉しく思います。思い返せば、レポートや課題に追われながらつらい時期を乗り越えて走り抜けた5年間だった気がします。ですが、そんな中でも回数こそ少なくなりましたが、文化祭や体育祭を全力で楽しむことができても充実した学校生活でした。

春からは社会人となり、高専生活よりも大変な道となるかもしれませんが、高専での経験やたくさんの思い出を支えに頑張っていこうと思います。

最後になりますが、お世話になった先生方本当にありがとうございました。

都市システム工学科

Civil and Environmental Engineering



ともに過ごした時間に感謝を込めて

5年担任 丹野 淳

ご卒業おめでとうございます！

皆さんはコロナ禍で入学し、リモート授業が続くなど、不安や制約の多い高専生活のスタートを切りましたね。その後、対面授業が再開された3年生で担任となり、出会った最初の印象は「素直で一生懸命なクラス」でした。クラスの絆を深めるために始めた月1度の席替えは、5年生になった今も続く恒例行事となりましたね。体育大会や磐陽祭では、仲間と支え合いながら全力で楽しむ姿が印象的でした。また、課外活動や進路選択では、後輩の目標となる道を切り拓き、まさに「挑戦する高専生」を体現していて、担任として誇らしかったです。

私自身、初めての担任で不安もありましたが、皆さんの笑顔に支えられ、伴走者として共に走り抜けることができました。これからの社会は変化が激しく、正解のない時代ですが、高専での学びや仲間との出会いを糧に、「自分の選んだ道を正解にする」ことが大切です。長い人生の中では思い通りにいかないこともあります、明けない夜はありません。自分を信じ、次の一步を踏み出してください。皆さんの成長した姿に再会できる日を楽しみにしています！

皆さんの未来が希望に満ちたものであることを心から願っています！

光陰矢の5都市

5年 山木 優輝

高専5年間、思い返すと赤点と再試にまみれたものでした。そんな僕が無事に卒業できたのは、間違いなく先生方とクラスメイトの皆さんのお陰です。

まず指導してくださった先生方、優しく分かりやすくご指導いただき本当にありがとうございました。また、丹野先生には最後までお世話になりました。特に4年生時には、進路が決まっていなかった時期からお忙しい中何度も面談をいただきました。先生のお陰で就職できたと言っても過言ではないです。感謝してもしきれません。

そして、クラスメイトの皆さん、皆さんとの時間はかけがえのないものでした。学校行事、定期テストの底辺争いから放課後のくだらない時間まで、一緒に過ごした時間は一瞬一瞬が宝物です。委員長として至らぬところも多かったですが、文化祭や体育祭等のイベントもクラスの優しい雰囲気のお陰で乗り切ることができました。5年という時間はあっという間でしたが、高専での5年間を皆さんと過ごせて良かったです。

最後に関わってくださった全ての方々へ心より御礼申し上げます。

ビジネスコミュニケーション学科

Business Communication



Take it easy

5年担任 安部 智博

表題は高校2・3年次の担任の先生から教えてもらいました。それ以来、私の好きな言葉になりました。

「人間万事塞翁が馬」。第一希望のゼミに落選しました。追加募集のあった財務会計のゼミに所属することになりました。大学院に進み、財務会計が専門になりました。

「縁」。毎月参加していた研究会がありました。参加している先生から福島高専の教員公募について教えてもらいました。応募しませんでした。次の月その先生は再公募になっていることを再び知らせてくれました。応募しました。福島高専の教員になりました。いろいろあって皆さんの担任になりました。3年次、バスケをする。牢屋に入る。4年次、東京引率で疲れ果てる。5年次、まあまあ心配される。

「感謝」。多分に、様々に助けられながら生きています。本当に有難いことです。

ちなみに第一希望のゼミに落選したのは20歳の時です。

それぞれの場所で豊かな人生を歩んでいってください。応援しています。

5年間を振り返って

5年 田中 颯

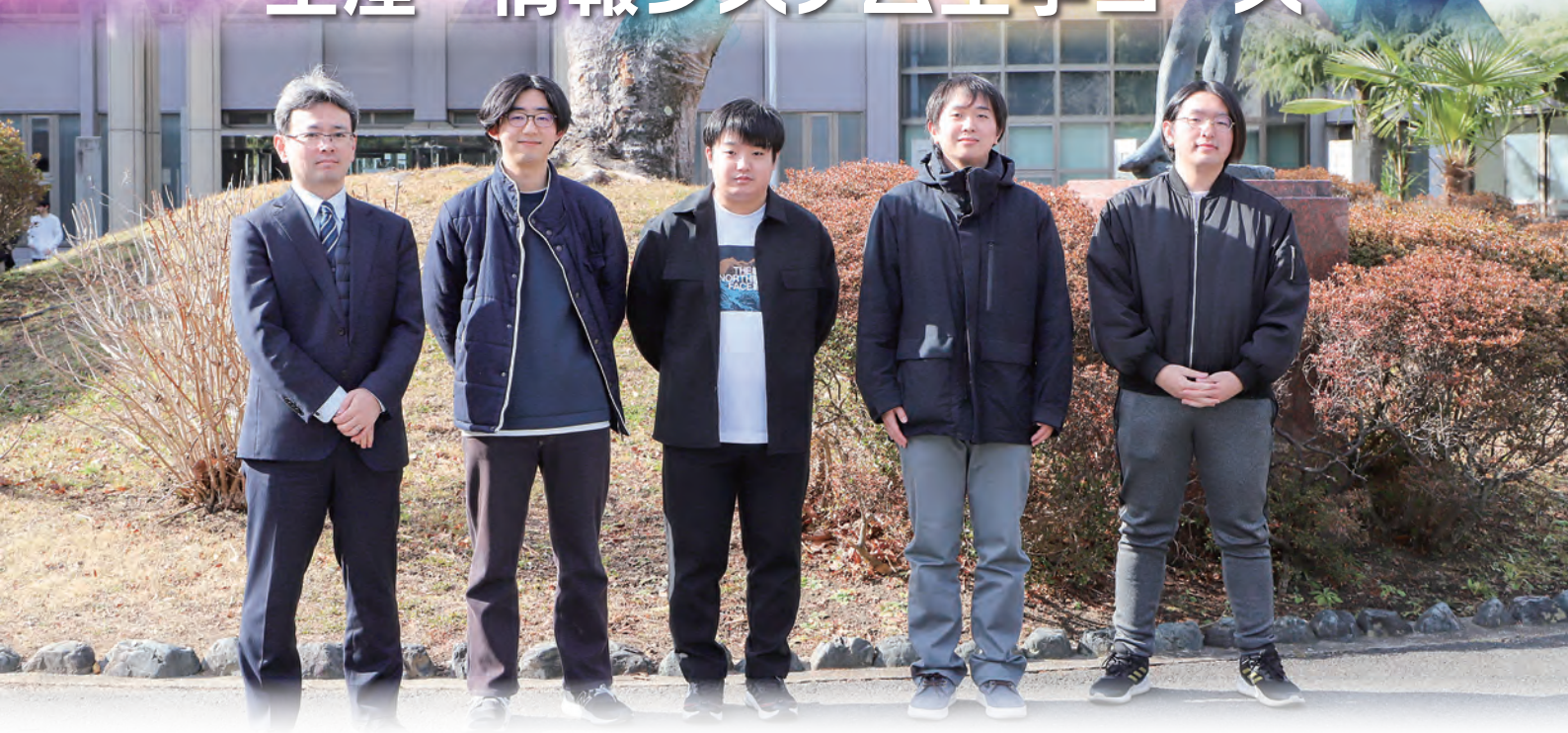
私たちの5年間は、とにかく変化に満ちたものでした。特に低学年の頃は新型コロナウイルス感染症の影響で、クラスメイトの顔を覚える間もなく遠隔授業が始まったり、様々な行事が変更になったりと先の見えない日々が続きました。また、今年は卒論に就職に進学と、クラス全員にとって大変な1年でした。だからこそ今日、この日を迎えることができたことを本当にうれしく思います。

満足に対面でコミュニケーションがとれないときがあったからこそ、私はこの5年間を通して、とにかく伝えることの大変さを学びました。しかし同時に、分かり合えることのうれしさもまた学ぶことができました。

これから私たちは先の見えない未来へと進んでいきますが、高専で過ごしたこの5年間の日々を胸に、精一杯頑張っていきます。

最後に、お世話になった先生方、支えてくれた家族、そして5年間を一緒に過ごしてくれたクラスの皆さん、本当にありがとうございました。

生産・情報システム工学コース



専攻科修了おめでとうございます

コース長 植 英 規

本科と専攻科を経て、長かった高専生活もようやく終わりを迎えます。これから皆さんは、今までのゆったりとした（？）時間の流れから飛び出し、急激に変化する社会の中で自らの力を発揮していくことになります。

専攻科の大きな特徴として、本科からの環境が変わらないということがあります。これを良い意味で存分に活用したかどうかは皆さんにしか分かりません。私としては、皆さんが後から振り返ったときに専攻科の2年間に大きな価値があったと思ってくれることを願うだけです。特別研究の内容は必ずしも直接的に仕事に関わるわけではないと思いますが、2年あるいは3年をかけて計画を実行していくプロセスそのものが、皆さんを大きく成長させてくれたはずです。

社会には多くの課題が存在し、それらに対応するために科学、技術の発展は欠かせません。そのため、専攻科を修了しても皆さんの学びはずっと続いていくでしょう。皆さんの今後のさらなる成長に期待します。

7年間大変お世話になりました

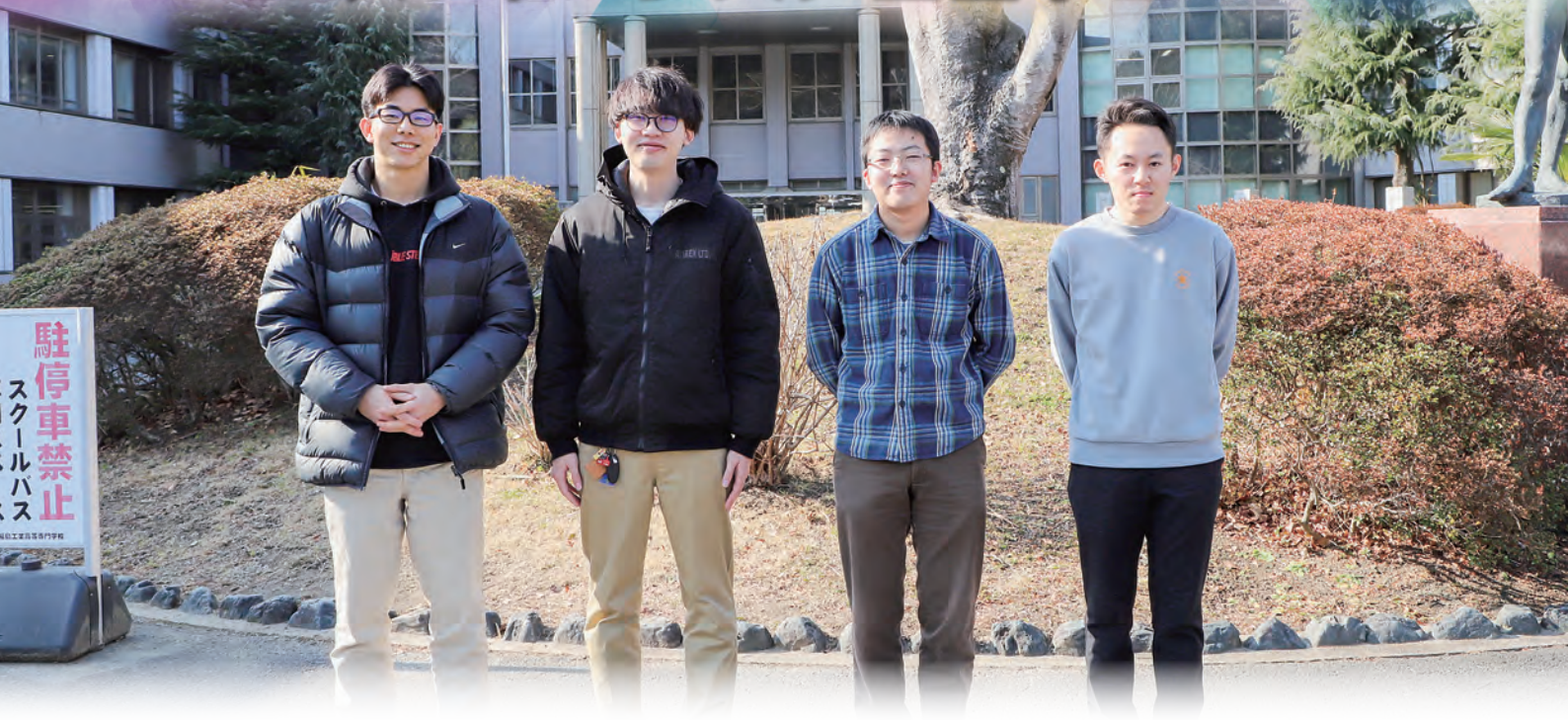
2年 根本 結 友

先日、高専での最後の講義が終わり、7年間に籍した学校を卒業するという実感が日に日に増していております。

私は、入学当初は自分のやりたいことや携わりたい分野が分からず、将来への不安で胸がいっぱいでした。しかし高専での学びを通じ、様々な分野の基礎から専門知識、応用事例など幅広い知識を身につけたことで、現在では非常に興味を惹かれる分野を見つけることができました。そして、その分野に深く携わることができる企業に就職することができました。

これらのことが成し遂げられた背景には、様々な方からいただいた多くの助力があります。共に切磋琢磨し合い、困った時には力を貸してくれた電気電子システム工学科のクラスメイトと専攻科の友人たち、学業だけでなく研究活動や進路相談でも大変お世話になった植先生はじめ諸先生方、そして私の生活を支えてくれた父母と祖父母に、心から感謝を申し上げます。7年間、本当にお世話になりました。

専攻科産業技術システム工学専攻 エネルギーシステム工学コース



皆さん、専攻科修了おめでとうございます！

7年間、お世話になりました！

コース長 鄭 耀 陽

2年 松 本 幸 大

福島高専での7年間本当にお疲れ様でした。
今年度ESコースでは在籍学生全員が順調に修了・就職できてほっとしているところです。

これからの新しい旅立ちに向けて、いくつかの言葉を贈ります。

まず、福島高専での学びと経験を大切にしてください。皆さんが高専で学んだ知識とスキルは、これからの社会で必ず大いに役立ちます。自信と誇りをお持ちください。

次に、未来に向けてチャレンジ精神を持ち続けてください。新しい環境や未知の分野に飛び込むことは勇気が必要ですが、その先には多くの学びと成長が待っています。失敗を恐れずに常に前向きな姿勢で挑戦し続けることが重要です。

そして、社会貢献の意識を持ち続けてください。皆さんの身に着けた知識とスキルは、社会全体の発展にも貢献できるものです。地域の抱える社会問題に取り組んだり、ボランティア活動を通じて社会に還元したりすることで、より良い社会を築く一助となるでしょう。

皆さん、これからのさらなるご活躍をご期待しています。

高専に入学して7年が過ぎ、ついに学生生活が終わりを迎えようとしています。入学時には、まさかこの学校に7年間も通うとは思いませんでした。長いようで短かった高専生活も卒業となると込み上げてくるものがあります。

高専生活を振り返ると、様々な記憶が蘇ってきます。楽しい思い出だけでなく、レポートや課題に追われる辛い日々もありました。そんな苦痛の日々を乗り越えた経験は自分の成長に欠かせないものであったと思います。手を差し伸べてくれた先生方や共に支え合った友人との思い出は、かけがえのない財産です。4月から社会人となりますが、福島高専で得た知識や経験を活かし、高専の名に恥じぬよう努力してまいります。

最後に高専での7年を振り返ると、友人や先生方に恵まれ、とても充実した日々を送ることができました。これまで7年間にわたり学業や研究活動のご指導をいただいた先生方や友人に心から感謝申し上げます。

化学・バイオ工学コース



専攻科修了、おめでとうございます

コース長 柴田 公彦

本科5年間、専攻科2年間の計7年間で過ごした学び舎から、いよいよ新たな世界へ飛び立つ時がきました。在学中、皆さんは研究活動に真摯に取り組む、全員が学会発表等での受賞または国際的な学術雑誌への論文掲載のいずれかの実績を残しました。その努力と成果は誇るべきものであり、皆さんが積み重ねた知識と経験は、これからの人生において大きな力となることでしょう。

最初のうちは分からないことが多いのは当然です。まずは自分で考えることを大切にしつつ、必要なときは適切に質問し、学ぶ姿勢を持ち続けることが成長の鍵になります。人生は長く、時には困難な壁にぶつかることもあるでしょう。皆さんが培った探究心と粘り強さを活かし、自らの可能性を信じて進んでください。

健康には十分気をつけ、充実した人生を歩んでください。皆さんのさらなる活躍を心から期待しています。

感謝

2年 石井 翔馬

7年前、期待と不安を胸に福島高専の門をくぐった日がまるで昨日のこのように思い出されます。この7年間は決して平坦な道のりではなく、幾度となく壁にぶつかり、迷い、立ち止まることもありました。

本科での5年間、そして専攻科での2年間を振り返れば、それは知識を深め、視野を広げた歳月でした。特に専攻科での研究活動や学会発表は、かけがえのない経験となりました。森崇理先生のご指導のもと、仲間と切磋琢磨しながら過ごした日々は、何にも代えがたい宝物です。

これから私は、新たな世界へと歩みを進めます。福島高専で培った知識と経験を胸に、さらなる挑戦へと臨む日々が待っています。どのような困難が立ちかはかろうとも、ここで学び、得たものを糧に、一歩ずつ確実に前進していく所存です。

最後になりましたが、これまで私を支えてくださったすべての方々に、心より感謝申し上げます。そして、どんな時も温かく見守ってくれた家族に深く感謝いたします。

本当に、ありがとうございました。

専攻科産業技術システム工学専攻 社会環境システム工学コース



7年間の思い出を経験・財産に

コース長 齊藤 充弘

みなさん、専攻科の修了、おめでとう！

専攻科の2年間はあっという間であり、ついこの間5年生を卒業したばかりであるような時の流れの速さを感じずにはいられませんが、専攻科入学を前に掲げた志望動機や入学後の抱負を1つでも、少しでも達成することはできたでしょうか。

みなさんは、本科も含めて7年間、この福島高専に通学して勉強に、研究に、学生生活にと過ごしてきました。振り返ると、最初はわからなかったことがわかるようになったり、できなかったことができるようになったりと、自身の成長を感じることができるはずです。そこには、苦勞して大変であったことやつらかったこと、楽しかったりうれしかったことなど、たくさんの思い出があるはずです。この先は、福島高専から一歩踏み出し、新たな環境で仕事をしたり日常生活を送ることになります。そこでも楽しいことやうれしいことはもちろん、大変なことやつらいこともあるかと思います。ぜひ、福島高専でのたくさんの思い出を経験に変えて、夢にむかって一つ一つの仕事にむきあい、充実した毎日を送ってください。そして、適宜その報告に福島高専に立ち寄ってください。それを楽しみに、私も毎日を楽しく、一生懸命仕事に取り組みながら過ごしていきます。

走り続ける

2年 紺野 匠馬

「RUN」。これは私が尊敬するアーティスト、B'zの曲です。私の高専生活はこの曲そのものでした。

7年前、私たちは何もない所からスタートし、卒業・修了に至るまで多くの喜怒哀楽をともに過ごしてきました。歌詞の中に、「時の流れは妙におかしなもので血よりも濃いものを作ることがあるね」という言葉があります。たしかにそうでした。7年間の中で、後悔することも多々ありましたが、そんな中でも仲間は私とともに最後まで走り続けてくれました。冗談を飛ばしながら日々見てきたものが一生の何分の一なのかはわかりませんが、どの瞬間もなかなか巡り合えないものであり、出会いはどれも特別なものでした。

私が高専で7年間過ごしてきた中で、人生において一番大切だと感じ、学んだことです。

速くてもゆっくりでも、とにかく走り続ければ辿り着ける場所がある、と私も思います。私たちはこれからも走り続けます。温かい目で見守っていただければ幸いです。

専攻科ビジネスコミュニケーション学専攻 ビジネスコミュニケーション学コース



専攻科修了生への贈る言葉

コース長 湯 川 崇

専攻科のご修了、心よりお祝い申し上げます。本科での5年間、そして専攻科での2年間で皆さんは多くの経験を重ね、着実に成長したと確信します。

社会は今、人工知能やデジタル技術の進化により、かつてない速さで変化を続けています。また、持続可能な社会の実現に向けて、環境やエネルギー問題への取り組みも強く求められています。このような時代にあって、皆さんが本科と専攻科で培ったコミュニケーション能力や専門知識は、必ずや大きな力となることでしょう。

これからの道のりには、様々な困難が待ち受けているかもしれません。しかし、ビジネスコミュニケーション学専攻で身につけた問題解決能力と、失敗を恐れずに挑戦し続ける精神があれば、どんな課題も乗り越えていけるはずです。

進む道はそれぞれ異なりますが、常に学び続ける姿勢を忘れず、自分らしく輝いていてください。皆さんが社会の各分野で存分に活躍されることを、心より期待しています。

7年分の感謝を込めて

2年 志 賀 あ み

長いようで短い、思い返すとあっという間の高専生活が、ついに終わりを迎えるとしています。専攻科に進学し、2年間でたくさんの経験ができ、本当に嬉しく思っています。

これまで支えてくれた家族、友人、かわいい後輩たち、手厚くご指導してくださった先生方に心より感謝申し上げます。

2年間での思い出は写真フォルダの中にたくさんありますが、特に印象的だったのは、学科の垣根を超えたグループワークです。クラスメイトと離れ各コース1人ずつ集まるため、はじめは不安ばかりでした。しかし授業の中での話し合いや発表、体育祭や磐陽祭などを通して段々と打ち解け、各行事を全力で楽しむことができました。19人の同級生のみなさん！ありがとうございました！

春からは社会人になりますが、高専での経験、愛おしい思い出たちを胸に精一杯精進していきます。最後に、これからの福島高専の未来が素晴らしいものとなりますよう、心から祈っています。7年間本当にありがとうございました。

本科生の進路状況（令和7年3月卒業）（ ）は女子学生

区 分	機械システム 工学科	電気電子 システム工学科	化学・バイオ 工学科	都市システム 工学科	ビジネスコミュニ ケーション学科	計
卒 業 者 数	35 (2)	41 (7)	38 (15)	40 (16)	34 (20)	188 (60)
進 学 者 数	14 (2)	20 (3)	18 (7)	21 (6)	19 (11)	92 (29)
就 職 者 数	19 (0)	19 (4)	20 (8)	18 (10)	13 (8)	89 (30)
そ の 他	2 (0)	2 (0)	0 (0)	1 (0)	2 (1)	7 (1)

専攻科生の進路状況（令和7年3月修了）（ ）は女子学生

区 分	産業技術システム 工学専攻	ビジネスコミュニ ケーション学専攻	計
修 了 者 数	16 (5)	4 (3)	20 (8)
進 学 者 数	1 (1)	0 (0)	1 (1)
就 職 者 数	15 (4)	4 (3)	19 (7)

進路先大学院

筑波大学大学院

産業技術システム工学
専攻(1名)

卒業生の進路一覧

機械システム工学科

福島高専専攻科(4名)／長岡技術科学大学(5名)／茨城大学／千葉大学／医療創生大学／千葉工業大学(2名)／DMG森精機(株)／ENEOS(株)／NOK(株)／アルプスアルパイン(株)／オリックス・ファシリティーズ(株)／(株)JERA(2名)／(株)クレハ／(株)デンソー／三洋化成工業(株)／常磐共同火力(株)／東京ガスエンジニアリングソリューションズ(株)／富士フィルム(株)／三菱ケミカルアクア・ソリューションズ(株)／三菱電機ビルソリューションズ(株)／雪印メグミルク(株)／ユニ・チャームプロダクツ(株)／(国研)日本原子力研究開発機構／(一社)ONE福島

電気電子システム工学科

福島高専専攻科(4名)／長岡技術科学大学(2名)／豊橋技術科学大学(6名)／茨城大学(2名)／福井大学／奈良女子大学／熊本大学／千葉工業大学／九州工業大学／東北芸術工科大学／総合学園ヒューマンアカデミー仙台校／CTCシステムマネジメント(株)／CTCテクノロジー(株)／JX金属(株)／ウナルステクノロジー(株)／(株)TBSアクト／(株)エヌ・ティ・ティ エムイー／(株)シグマ／(株)日立ハイシステム21／(株)ビーネックステクノロジーズ／セコムトラストシステムズ(株)／東京電設サービス(株)／東京電力ホールディングス(株)(3名)／トーテックアメニティ(株)／ネクシオン(株)／横河ソリューションサービス(株)／リニューアブル・ジャパン(株)(2名)

化学・バイオ工学科

福島高専専攻科(4名)／長岡技術科学大学／東北大学／

宇都宮大学(4名)／東京農工大学／東京海洋大学／山梨大学／新潟大学／岡山大学／東京理科大学／近畿大学／大阪芸術大学／あすか製薬(株)／インターナショナル・ケミカル・エンティティー・ジャパン(株)／大阪ガスネットワーク(株)／(株)浮間化学研究所／(株)フレハ／(株)ファイントウディインダストリーズ／堺化学工業(株)／昭和産業(株)／成和化学工業(株)／東レ(株)／第一三共(株)(6名)／富士フィルムワコーケミカル(株)／朋和産業(株)／三井金属鉱業(株)(2名)

都市システム工学科

福島高専専攻科(4名)／長岡技術科学大学(5名)／豊橋技術科学大学(2名)／北海道大学／茨城大学／宇都宮大学／群馬大学／埼玉大学／千葉大学／横浜国立大学／岐阜大学／東京都立大学／千葉工業大学／音響芸術専門学校／JR東日本コンサルタンツ(株)／鹿島建設(株)／(株)大林組／(株)ザイマックス／(株)復建技術コンサルタント(2名)／(株)フジタ／(株)東日本建設コンサルタント／五洋建設(株)／清水建設(株)／電源開発(株)／東京水道(株)(2名)／東北電力(株)／日本ファブテック(株)／東日本高速道路(株)／森トラスト・ビルマネジメント(株)／いわき市役所

ビジネスコミュニケーション学科

福島高専専攻科(4名)／長岡技術科学大学／福島大学(2名)／宇都宮大学／横浜国立大学／金沢大学／大阪大学／奈良女子大学(2名)／神戸大学(2名)／広島大学／香川大学／九州大学／大阪商業大学／東京デザイナー学院／JX金属(株)／NOK(株)／エクシオグループ(株)／(株)LOCO／(株)エヌ・ティ・ティ エムイー／(株)ディ・ポップス／(株)ネットブレインズ／(株)東日本計算センター／カルビー(株)／キヤノンアネルバ(株)／税理士法人常陽経営／東京ガスネットワーク(株)／日本ビジネスシステムズ(株)

レア／(株)日本海水／五洋建設(株)／大陽日酸(株)／東海旅客鉄道(株)／東北電力(株)／日本工営エナジーソリューションズ(株)／いわき市役所

ビジネスコミュニケーション学専攻

アルテンジャパン(株)／エリクソン・ジャパン(株)／キヤノンアネルバ(株)／大熊町役場

修了生の進路一覧

産業技術システム工学専攻

ANAベースメンテナンステクノクス(株)／JX金属(株)(2名)／(株)東コンサルタント／(株)アルファシステムズ／(株)大阪防水建設社／(株)オリエンタルコンサルタンツ／(株)ケミク



学生会活動の1年を振り返って

4年電気電子システム工学科 山 崎 え ん

我々学生会執行部は、福島高専の学生を裏で支える存在として、1年間にわたり学生会活動に尽力してきました。今回は学生会長として、1年間の学生会活動について広報させていただきます。

我々の主な活動として、部活動等への学生会費の振り分けや決算があります。今年はこの点において集中的に活動を行いました。新型コロナウイルスの影響により、予算案や決算案を可決する学生総会が開催されなくなったため、可否の投票が集まりづらくなってしまいました。これを改善するために、オンラインでの投票や積極的な周知を行い、できる限りの対策を講じました。また、来年度からは対面での学生総会を再開し、学生が集まる場を設けることで、投票率の向上や予算内容を学生の皆さんにより理解してもらうための変更を行いました。さらに、予算をより多くの部活動が公平に活用できるよう、予算配分方法を見直し、各団体の希望額を受けて我々が責任を持って判断する方式に変更しました。加えて、サークルとして積極的に活動している団体が部活動として予算配分を受けられるよう、昇格のお手伝いも行っております。

以上が、1年間の学生会活動の一部です。今年度も、皆さんがより良い学生活動を行えるよう、引き続き努力してまいります。ありがとうございました。

令和6年度 学生会執行部・役員 連絡先

※学年は、令和6年度の学年。

2024/5/21 現在

役 職	氏 名
会 長	山崎 えん
副 会 長	木村 泰地
	木村 想良
書 記	小野 咲来
	助川 花怜
	加藤 朋美
会 計	會田さくら
	泉田 理咲
	高木 美佑
	高木 真士
	岩村 桃

役 職	氏 名
広報・渉外	橋本 拓真
	菱事 愛奈
監 査	池田ひかり
	小野 泰耀
	櫛田 莉央
	竹内 一花
補 助	三瓶 悠翔
	馬場 百花
	山田蒼之介

役 職	氏 名
学生会担当 学生主事補	柴田 公彦





校長 田口 重憲

令和5年4月に着任し、2年間という短い間ではありましたが、その間さまざまなことができました。

着任当日の4月1日には、岸田総理(当時)が福島高専を訪問されました。福島浜通りの復興のシンボルとして「福島国際研究教育機構(F-REI)」が浪江に設立され、その設立式の帰りに立ち寄られました。福島高専の取組についてベテラン校長のふりをして説明をしましたが、内心冷や汗もの。波乱万丈な幕開けであるとともに、F-REIや福島イノベーションコースト構想への貢献が福島高専の役割だと強く感じさせるものでした。

着任して感じたことは、コロナ禍において学生たちの活動が制約され「学校生活を十分楽しめていないのでは」ということです。令和5年5月にコロナは感染症の第5類に移行し、活動の制約はなくなりましたが、あまりに長い期間の活動制限でしたので、上級生から下級生へ様々な行事やイベントなどのノウハウが承継されていないように感じました。コロナ以前のように学校生活を楽しんでほしいと考え、学生たちの背中を押すような取組をさせていただきました。60周年の記念事業として整備された「陽だまりカフェ」で甘酒の提供をしたり、芋煮を開催したりしました。昨年のクリスマスには、新しく整備された中庭でアートとテクノロジーが融合した「光と音の祭典」を開催。伝統ある磐陽祭や新たに学生たちが独自に立ち上げた新入生歓迎イベントや「収穫祭」などと相俟って福島高専での青春の思い出となってくれればと思います。「光と音の祭典」や「収穫祭」は3～5年後ぐらいに地域のイベントに「進化」することを夢見てしまいます。

また、昨年6月に開所した「磐陽テックガレージ」にも思い入れがあります。学生を指導する技術職員も新たな装置の習熟に努めてくれました。自分の3Dデータを作成し「踊る校長先生」の動画を作ってくれましたが、一見の価値はあると思います。ガレージの利用促進のため、様々なコンテストを企画。多くの学生が参加してくれました。令和6年の1年生は、いわき市教育文化事業団とコラボし、事業団が管理運営する施設のグッズの作成を行い、テックガレージがアントレプレナーや地域活性化のエンジンの役割になりうることを示してくれました。福島高専を「知のワンダーランド」とする中心施設ですので今後の学生の活発な利用に期待しています。

福島高専の魅力をアップする取組に努め

ました。リケジョを増やす取組は、令和7年入学生のうち81人が女子学生という成果につながりました。また、地元の理科好きの子どもたちを増やそうと「サイエンスフェア」も初めて実施。実施にあたって、カーボンニュートラル社会連携講座を高専とともに取り組んでいる地元企業に協力をいただきました。地元企業とともに人材を育成する取組は、今後高専生の育成にもおよび福島高専の教育活動をより厚みのある魅力的なものとしてくれると信じています。そのほか、魅力度をアップする取組としては、桜再生プロジェクト(老朽化した桜の計画的更新)の開始、第二グラウンドの周辺の植生の整備、磐陽会館1階のトイレの改修などにも取組みました。桜に関しては、自らショート動画を作成し高専のHPにアップ、高専の桜で苗木を作る取組は、昨年6月は失敗し、2月から再挑戦中です。

福島高専を「唯一無二」の存在にしたいと考え、いろいろと始めさせていただきました。まいた種が成長する姿を見ることができないこと、地元企業と連携した高度な教育活動など種まきの準備しかできなかったことが残念です。後任の校長がさらに魅力的な学校へと導いてくれるでしょう。2年間、様々な新たな取組について、相談に乗ってくれ、そして実行に移してくれた主事、副校長はじめすべての先生方、事務部長はじめ職員の皆様に感謝を申し上げますとともに、校長のアイデアに参加し福島高専を盛り上げてくれた学生の皆さんに感謝を申し上げますとともに、学生の皆さんが楽しみながらこれからの学生生活を過ごすことを祈念し、お別れの言葉とします。





化学・バイオ工学科 教授

内田 修司

このたび、令和7年3月をもちまして、定年退職となりました。在職中は、多くの方々に支えられながら充実した日々を過ごすことができました。東日本大震災、新型コロナの蔓延など振り返れば、さまざまな困難がありましたが、皆様とともに乗り越えて今日を迎えられていることに感謝の気持ちで一杯です。

災害対応、学びを止めない取り組み、加えて少子化対応、AIの登場による知識のコモディ化、コスパ・タイバ重視の風潮など、学校を取り巻く環境の変化が大きい時期でしたが、皆様のおかげで、何とか前向きに仕事に取り組むことができたと思います。

今後は、これまでの経験を活かして、少しでも社会に役立てるように取り組みたいと考えています。

最後になりますが、皆様のご健勝とさらなるご活躍、福島高専のご発展を心よりお祈り申し上げます。ありがとうございました。



一般教科 教授

笠井 哲

私は高専創立の前年に生まれ、父が奇しくも翌年、本校と同じ一期校の群馬高専の哲学の教員となりました。3歳の私は、高専祭で眼が光るロボットを怖がり大泣きしたそうです。父は5年で大学に、後任の叔父も6年で大学に移ったため、私も就職当時は、福島高専を次の職場への腰掛と考えていました。

しかし、思いがけなく在職は34年にわたり、その間に結婚し息子が生まれ家も建てました。就職してすぐ、厳格な三主事から3日間説明を受け、教育・研究と校務との両立が難しそうで不安になりました。それでも、書いた論文等は222編を数え、寮3年と学生8年、11年連続で主事を務めたのです。

両立できたのは、親切な教職員の皆さんと明るい学生たち、保護者の皆様のご協力のお蔭です。お世話になりました。チーム福島高専が、弱い私を支えてくれたのです。振り返れば福島高専は、私にとって腰掛ではなく、ご縁があった職場といえます。どうもありがとうございました。



ビジネスコミュニケーション学科 教授

芥川 一則

このたび、3月31日をもちまして、27年間勤めさせていただきました福島工業高等専門学校を退職する運びとなりました。

振り返れば、1998年4月に着任した際、「21世紀を共に体験しましょう」とご挨拶申し上げたことが、今も鮮明に記憶に残っております。この年月の間に、科学技術は著しい進歩を遂げました。当時はフロッピーディスクが主流であったのに対し、今日ではクラウドを用いた記憶媒体が普及し、また学生生活も携帯電話からスマートフォンへと大きく変化いたしました。

最も印象に残るのは、学生の皆さんの進路です。就職や進学という従来の選択肢に加え、起業という新たな道を選ぶ方々が現れ、自らの人生を切り拓く決意を強く感じるようになりました。

長年にわたり大変お世話になりましたこと、心より感謝申し上げます。皆様のご健康とご多幸、そして福島工業高等専門学校のさらなる発展をお祈りいたします。

卒業生主催「芥川先生最終講義」を開催

令和7年3月に定年退職を迎えた芥川先生の実業最終講義が3月8日(土)、本校階段教室で開催されました。この最終講義はコミュニケーション情報学科(現・ビジネスコミュニケーション学科)卒業生であり、本校の非常勤講師を務めていただいている栗林先生が発起人となり実施されました。2002～2024年度卒業生まで約50名が参加されました。講義終了後には学生食堂で懇親会も行われました。ビジネスコミュニケーション学科では初めての最終講義となり、多くの卒業生に囲まれ芥川先生の退職に花を添えることができました。



一般教科 助教

泉類 尚貴

コロナ禍の影響が色濃く残る中で着任した2022年4月から、早いもので3年が経ちました。この度、大学

に異動することとなり、福島高専を離れることになりました。この3年間を振り返ると、最も印象に残っているのは学級担任として過ごした時間です。着任からわずか2年目で担任を拝命し、未熟な点も多かったかと思いますが、クラスの学生たちは入学当初と比べて驚くほど成長し、「自律」の力を身につけてくれました。ここで言う「自律」とは、自分で考え行動することに加え、必要な時には依存ではなく他者に頼る力も含まれます。その柔軟さを持ち続け、まずは希望する進路を実現してくれることを心から願っています。授業や試験では、高専生のポテンシャルを信じ、「やった気分」や「覚えた気分」とどまらないよう工夫を重ねてきました。私の授業を通して、他科目の学習にも活きるような「考えながら学ぶ力」や、「自分を客観視する力」が育っていれば、とても嬉しく思います。最後に、「すぐ役立つことは、すぐに役立たなくなる」という言葉をお伝えしたいと思います。簡単に「正解」が手に入る時代だからこそ、教養を磨き、他者を尊重し、出会いを大切にしながら、じっくりと考えや言葉に向き合ってください。この3年間、多くの教職員の皆様には大変お世話になりました。また、私と関わってくれた学生の皆さん、保護者の皆様に心より感謝申し上げます。

退職者挨拶



事務部長

鈴木 剛

3年間福島高専でお世話になり、ありがとうございました。

60周年事業など大きなイベントもありましたが、心がけてきたのが学生さん目線です。学生の居場所が少ないため、玄関から庭、食堂、売店、磐陽会館2階の「ひだまり」、トイレの改修など少しは充実できたのではないかと思います。庭はまだ発展途上です。季節ごとの変化など少しずつ学生さん自ら発展される事と思います。また、「磐陽テックガレージ」などの開所もあり、更に5つの学科の横の連携が進むことを期待します。大学入試がない高専生活は、ノーマル高校とは異なる人生の歩みがあります。課外活動を通じ、夕方の有効活用で学びの他に将来社会に出る前の準備期間として大きな可能性があります。全ての人に1日24時間平等に与えられています。その中でポジティブに様々な事にチャレンジしていった欲しいと思います。

この4月にはいわきを離れますが、新たな環境のもと自身の成長も感じられるよう努力しつつ、福島高専の益々の発展を応援しております。



学生課 課長補佐（総括担当）

吉田 浩二

皆さんは日本国有鉄道（国鉄）をご存じでしょうか？

私は、国の施策により進められた国鉄の分割民営化に伴い、昭和62年4月に縁あってここ福島高専に採用されました。国鉄という現業機関から学校職員に異動したのですが、事務職は初めての経験であり、戸惑うことばかりでしたが、よき先輩や同僚に恵まれ、楽しく無事定年まで勤めることができました。

この間、学科棟の火災や東日本大震災並びに新型コロナウイルス対応など、教職員が一丸となり、オール福島高専として協力しながら復旧や正常化に向け業務を進めました。震災時には、放射線計測や非常時の連絡要員として各課1名が宿直を行うことになり、エアコンの停止した事務室において、ジャンパーを重ね着し、簡易ベッドで仮眠しながら業務に当たったことが、一番の思い出です。

4月からは再雇用職員として、しばらくお世話になります。引き続きよろしくお願いいたします。



総務課施設管理係

鹿内 康熙

令和4年4月1日付で弘前大学より異動してきて早3年が経ちます。向こうで「福島高専に異動だ

よ」と言われた時の複雑な心境は今でも鮮明に思い出せます。それまでは施設系職員として、専門である電気分野の工事発注や役務契約を担当しておりましたが、高専では専門にとらわれず広い業務をこなさなければならぬと聞いていたからです。専門外である建築や機械設備の仕事について、慌てて先輩に教えを乞うたものでした。

総務課施設管理係としての仕事は未知の連続でした。建築や機械設備の工事発注はまだしも、自分で一から入札事務手続きを進めたり、財務会計システムを操作したりといったことはとても良い勉強になったと思っております。虫網片手にハチの巣駆除へ赴いたことも、今となっては良い思い出です。

本年4月より東北大学へ異動となりますが、ここでの経験を活かしながら職務を全うしていきたいです。最後に、この場を借りてお世話になった教職員の皆様に感謝申し上げます。3年間本当にありがとうございました。

退職・転出者等一覧

●定年退職

化学・バイオ工学科	内田 修司
化学・バイオ工学科	酒巻 健司
ビジネスコミュニケーション学科	芥川 一則
一般教科	笠井 哲
学生課長補佐	吉田 浩二

●転出

校長	田口 重憲 (文部科学省へ)
一般教科	泉類 尚貴
事務部長	鈴木 剛 (文部科学省へ)
総務課施設管理係	鹿内 康熙 (東北大学へ)

●雇用期間満了

ビジネスコミュニケーション学科	加藤 裕美
-----------------	-------

●再雇用期間満了退職

特任教授	原田 正光
嘱託准教授	島村 浩
嘱託准教授	松江 俊一



今年の磐陽祭のテーマは「MEGA青春!～単位より大切な何かを求めて～」です。学生たちが毎日何気なく過ごしているこの日常は、大人になって振り返った時、間違いなく「青春」であり、戻れない日常です。だからこそ「青春」の中にいる今、学生生活の一大イベントである文化祭を精一杯楽しんで「青春」を謳歌してほしいという思いがこのテーマに込められています。

当日は、悪天候にもかかわらずたくさんの方にご来場いただき、大盛況のうちに幕を閉じることができました。



光と音の祭典

12月20日（金）に「光と音の祭典2024」を開催しました。このイベントは、福島高专生の技術と芸術が融合した内容となっており、イノベーションコモンズ（中庭）を活用し行われました。



収穫祭

2月26日（水）、オルタナティブサークル（軽音サークル）主催で「収穫祭」というイベントが開催されました。このイベントは、学生が名称の考案から企画・運営までを手がけたものです。「収穫祭」とは、学生によると、日々の高专生活で得た「収穫」を祝う行事であり、5年間の個人や団体の努力の成果を展示・発表し、慰労することを目的としたイベントです。今回は、ダンス部、吹奏楽部、そしてオルタナティブサークルがパフォーマンスを披露しました。また、鉄道愛好会、美術部、無線通信部、天文部、教職員、さらには学生個人による展示も行われ、多彩な発表が展開されました。ステージの設営、音響調整、展示の配置など、すべて学生が自主的に担当し、イベントを成功へと導きました。

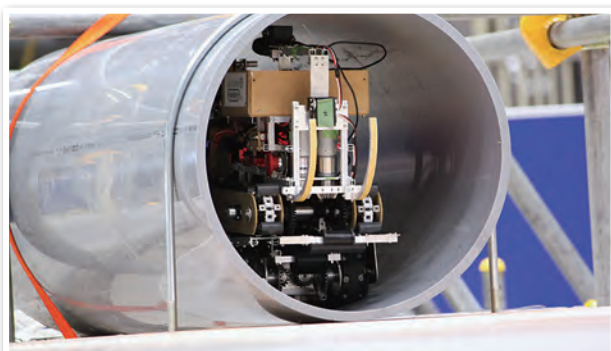


第9回廃炉創造ロボコンを開催

今回が第9回となる廃炉創造ロボコンが、12月21日（土）JAEA櫛葉遠隔技術開発センターを会場に開催されました。書類選考によって選ばれた全国の国公立高専から16チーム、マレーシア工科大学1チームの全17チームが参加いたしました。

今年度から高線量下で人が入れない原子炉格納容器内部の調査、デブリの回収を想定した課題となりました。各校が苦戦を強いられる中、小山高専が4年連続最優秀賞を獲得しました。福島高専は、スムーズに階段を下降するアイデアや技術などが評価され特別賞（東京エネシス賞）を受賞しました。

大会当日は、あべ俊子文部科学大臣がお見えになり、大会の様子をご覧になりました。また、本校出場チームのメンバーと懇談の機会もあり、参加学生にとって貴重な経験となりました。



「STEAMカフェ」をひだまりカフェで開催

福島国際研究教育機構（F-REI）からの委託事業「令和6年度福島浜通り地域におけるまちづくり研究及びラーニング・コミュニティハブ整備」の一環として、本校のひだまりカフェで「STEAMカフェ」というイベントを開催しました。

第1回テーマ：「次世代の創造・融合を刺激するサードプレイスのあり方」について

第2回テーマ：「原子力災害からの復興まちづくり～原形と現形に至るまちづくり調査・研究」

第3回テーマ：「廃炉ロボット・宇宙用耐放射線ダイヤモンドマイクロプロセッサ・メモリの要素技術開発」

高専ロボコン2024東北地区大会 アイデア賞・特別賞を受賞

10月20日（日）、第37回アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2024東北地区大会が開催され、本校出場チームがアイデア賞を受賞しました。

今年の競技テーマは「ロボたちの帰還」。ロボットが子機ロボットを飛ばし、その着地の正確性や、ボールとボックスの回収と帰還を競うものです。本校からは、2チームが参加しました。

福島高専Aチーム

プロジェクト名：四神獣

メンバー：大橋 ほの（2C）

鷗沼 瑛彦（2M）

本間 龍太（2M）

福島高専Bチーム

プロジェクト名：準艦

メンバー：佐藤 陸（3E）

鈴木 元大（3E）

荒木 結衣（2M）

製作・調整協力：ロボット技術研究会学生

両チームともベスト4となり決勝へは進めませんでしたが、Aチームはロボットの役割分担や、ピンポイントでの着地の成功が評価され、アイデア賞と特別賞を受賞し、推薦による全国大会出場権を獲得しました。



高専GCON2024（GIRLS SDGs×Technology Contest）本選 協賛企業（鹿島建設）賞を受賞

12月14日（土）～15日（日）に開催された高専GCON2024（GIRLS SDGs×Technology Contest）（12月14日～15日 東京大手町：日経ホール）において「チーム・まちのお医者さん」（都市システム工学科5年高田奏さん、梅津柚花さん、佐川さくらさん、丹野日万莉さん、長岡凌功さんのチーム）がファイナリスト賞と協賛企業（鹿島建設）賞を受賞しました。

今回の発表テーマ・内容である「Let's Go!! IWAKIパークレット」、2025年3月末までの予定で、いわき駅前大通りラトプ1階玄関口に設置されています。



本校教員が学科で奨励賞を受賞

化学・バイオ工学科 加藤准教授と都市システム工学科 三浦助教が第27回公益信託 エスベック地球環境研究・技術基金のエスベック環境研究奨励賞、一般社団法人環境放射能除染学会奨励賞をそれぞれ受賞しました。

加藤准教授の研究は自然由来の機能性分離メディアを用いた廃棄物からのレアメタル分離・回収を目指しており、環境保全への貢献が期待され受賞につながりました。

三浦助教の複数回優秀ポスター賞を受賞する等の優れた研究成果のほか、学会運営での貢献も期待できる貴重な若手研究者であるとして今回の受賞に至りました。



SDGs Webinar 2024 ～SDGs達成に向けたチャレンジマインドの醸成～を開催

今年度も長岡技術科学大学・豊橋技術科学大学との共催で「SDGs Webinar 2024」を開催しました。オンライン形式で10月5日（土）～11月16日（土）に5回のワークショップ、ハイブリッド形式で12月7日（土）に最終発表会を実施しました。



ワークショップではSDGs達成に向けた条件やそのマインド作り、世界の取り組み事例等について各講師からご教授いただきました。グループワークでは、SDGs17を取り入れたビジネスモデルプランの作成に取り組みました。

2020年からスタートした本校主催のSDGs Webinarも5年目を迎え、来年度開催に向けて、より一層充実した内容に進化し継続する予定です。

本校学生が湯本第一中学校で「情報モラル教室」を実施

12月13日（金）、本校学生が講師となり、いわき市立湯本第一中学校で全校生徒に向けた「情報モラル教室」を実施しました。講師を務めた学生8名は、福島県警から委嘱を受けた「サイバー防犯ボランティア」のメンバーです。

本講義の教材はすべてボランティア学生たちが制作しました。湯本第一中学校の生徒たちに予め行った事前アンケートに基づく数値を基に、スマートフォン利用に関する家庭内でのルール決めや、ネット・ゲーム依存の危険性、SNSトラブルへの注意喚起などが話されました。

中学生たちは、同じ十代の講師の話に熱心に耳を傾けていました。



山中原子力規制委員長が学生と意見交換

原子力規制委員会の山中伸介委員長が1月17日（金）に来校しました。

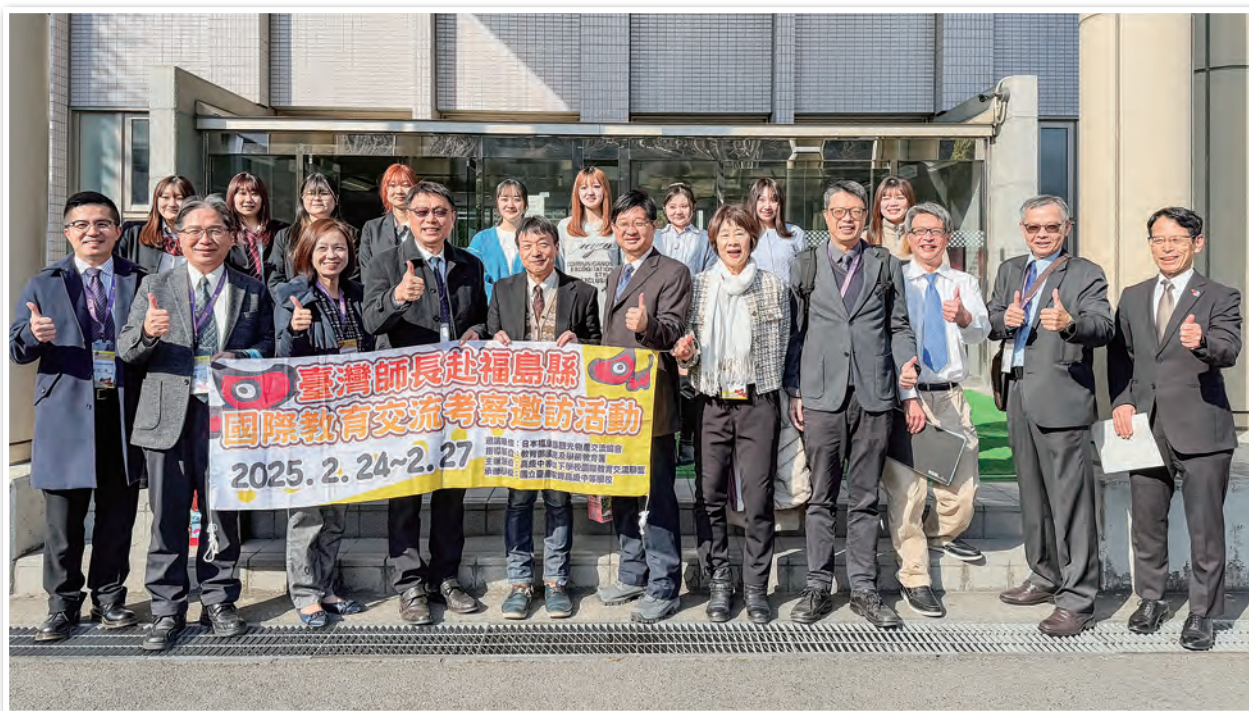
規制委員会が設立された経緯や原発の廃炉に関する講演が行われ約80名の学生が参加しました。その後、原子力規制人材育成事業等に参加している学生との意見交換が行われ、学生たちからの質問に丁寧にお答えいただきました。

今回の来校は原子力規制人材育成事業の一環で、規制委員長が現役学生と対話するのは初の試みでした。



台湾の教育関係者が本校を視察

2月27日（木）に台湾の国立高等学校長をはじめとする教育関係者8名が福島高専を見学しました。一行は施設をはじめ、授業内容、学生活動や国際化の成果などを幅広く視察しました。台湾の教育関係者たちは、本校の学生と一緒にいわき市の代表的なお菓子を食べながら、お互いに楽しく交流しました。今回の視察を通して、いわき市の震災復興及び福島高専の取り組みに対して深い感銘を受け「本校との更なる国際交流を行いたい」と話していました。



パソコン甲子園 2024 プログラミング部門

成績優秀賞、企業賞 (アイグロブ賞)を受賞

パソコン甲子園2024プログラミング部門（11/2会津大学）に、電気電子システム工学科2年の水野大地さん、山谷剛瑠さんが出場しました。全国506チームがエントリーしたオンライン予選に参加し成績優秀賞を受賞。本選出場31チームに選出され、企業賞を受賞しました。



外国人による日本語スピーチコンテスト

株式会社河京・会長賞を受賞

外国人による日本語スピーチコンテスト学生部門（12/1日本大学工学部）において、都市システム工学科3年クエクワニ エマニュエル（ジンバブエ出身）さんが出場し、株式会社河京・会長賞を受賞しました。



エコノミクス甲子園福島県大会

優勝・準優勝

エコノミクス甲子園福島県大会（12/8東邦銀行福島支店）においてビジネスコミュニケーション学科3年氏家成さん、同学科2年渡辺耀大さんのチームが優勝し、同学科3年菊池太郎さん、清水菜生さんのチームが準優勝を果たしました。優勝した氏家さん・渡辺さんチームは来年2月に行われる全国大会に参加する予定です。



福島銀行主催

「2025年カレンダーフォトコンテスト」

ふくぎん賞（佳作）を受賞

福島銀行主催「ふくぎん地域元気プロジェクト第2弾」「2025年カレンダーフォトコンテスト」で、電気電子システム工学科2年橋本拓真さんが、ふくぎん賞（佳作）を受賞しました。



福島高専同窓会

「一都三県同窓会」を開催しました

昨年11月に一都三県の福島高専同窓会が初めて東京で開催されました。1回生から40回生までの約50名が参加されました。同窓生の絆を深めると共に、福島高専生としての誇りを新たにしたい大変有意義な同窓会となりました。野口同窓会長から、今後もこのような同窓会を実施予定であり、対象地域を関東甲信越へ広げ、より多くの同窓生に出席いただける機会を設けたいとのお挨拶がありました。



機械工学科第18回卒業生が学校見学

5月18日（土）、機械工学科第18回卒業生（昭和59年3月卒）16名が同窓会の開催に合わせて、本校を訪れました。小出機械工学科長の説明のもと、機械システム工学科棟、実習工場、磐陽テックガレージ、図書館棟、第一ブランド、武道場、イノベーションコモンズなどを見学しました。

多くの施設は、全面改修されていますが、建物の構造やグラウンドなど、当時と変わらない風景に、卒業生は思い出話を咲かせていました。また、武道場には、これまでの剣道部員の写真が飾られており、当時の同級生の姿を懐かしんでおりました。



同窓会名簿を 発行しました

創立60周年を記念し、同窓会名簿が発行されました。2023年度から同窓会名簿の整備作業を開始し、2024年3月に完成いたしました。同窓会名簿に関するお問い合わせは株式会社サラト（業務委託先）へお願いいたします。

令和6年度福島県高等学校新人体育大会

■バドミントン競技

男子団体		2 回戦敗退
男子シングルス	阿部 優哉 (1M)	2 回戦敗退
	新妻優之介 (1C)	2 回戦敗退
	高橋 幸汰 (2E)	2 回戦敗退
男子ダブルス	阿部 優哉 (1M)	
	藁谷 優雅 (1E)	ベスト16
	吉田 侑太 (2C)	
	新妻優之介 (1C)	2 回戦敗退
	高橋 幸汰 (2E)	
	一条 英汰 (1E)	2 回戦敗退
女子シングルス	永井 愛乃 (1B)	2 回戦敗退
女子ダブルス	堀越 万由 (1C)	
	永井 愛乃 (1B)	3 回戦敗退

■ソフトテニス競技

男子団体戦		2 回戦敗退
男子個人戦	太田 仁志 (1B)	
	中平 麗斗 (1B)	3 回戦敗退

■バレーボール部

男子		2 回戦敗退
----	--	--------

■卓球競技

男子団体戦		1 回戦敗退
-------	--	--------

女子団体戦		1 回戦敗退
男子シングルス	秋房 史人 (1B)	2 回戦敗退
女子シングルス	永山 和奏 (2C)	3 回戦敗退
	仲村 香穂 (2B)	2 回戦敗退
女子ダブルス	永山 和奏 (2C)	
	仲村 香穂 (2B)	3 回戦敗退

■水泳競技

男子		
総合		第4位
50m自由形	松本 夢空 (1T)	第3位
100m背泳ぎ	渡邊琥太郎 (2B)	第6位
200m背泳ぎ	渡邊琥太郎 (2B)	第5位
100m平泳ぎ	草野 加偉 (1M)	第8位
100mバタフライ	丹野 智晴 (2M)	第5位
200mバタフライ	丹野 智晴 (2M)	第4位
4×100mメドレーリレー		第5位
4×100mフリーリレー		第4位

■弓道競技

団体競技男子		予選敗退
団体競技女子		予選敗退
個人競技男子	木村 悠杜 (2C)	準決勝敗退

各協会・連盟主催大会等

■サッカー部

◎第103回全国高等学校サッカー選手権大会福島県大会	
	3 回戦敗退

■硬式野球部 (連合チーム)

◎第29回国体開催記念いわき支部高校野球大会	
	準決勝敗退

■水泳部

◎第32回東北高等学校新人水泳競技大会		
男子50m自由形	松本 夢空 (1T)	予選敗退
男子200mバタフライ		
	丹野 智晴 (2M)	予選敗退
男子4×100mメドレーリレー		予選敗退
男子4×100mフリーリレー		予選敗退

各種大会・コンテストの結果

■硬式野球部

◎第12回東北地区高等専門学校硬式野球交流戦			
1 回戦	福島	4-0	秋田
準決勝	福島	0-8	仙台名取
3 位決定戦	福島	1-8	一関
総合			第 4 位

■バスケットボール部

◎令和6年度東北地区高等専門学校バスケットボール新人大会

男子	福島	40-19	八戸
	福島	20-26	一関
	福島	14-33	仙台名取
	福島	27-15	仙台広瀬
	福島	20-36	秋田
	福島	28-30	鶴岡
女子	福島	17-28	八戸・名取連合チーム
	福島	9-31	秋田

■ソフトウェア研究会

◎第22回全国高等学校パソコンコンクール		
パソコン甲子園2024		
プログラミング部門		
水野	大知 (2E)	
山谷	剛瑠 (2E)	企業賞受賞

■吹奏楽部

◎第44回定期演奏会		開催
------------	--	----

■茶華道部

◎いわき学校茶道連盟第56回合同発表会		参加
---------------------	--	----

■演劇部

◎いわき地区高等学校演劇コンクール		優秀賞第三席
	蛭田 恋実 (3B)	演技奨励賞

■鐵道愛好会

◎第16回全国高等学校鉄道模型コンテスト全国大会		奨励賞受賞
◎第13回全国高校生地方鉄道交流会		参加
◎第3回只見線全国高校生サミット プレゼンテーション大会		参加

■有志学生

◎第3回高専GIRLS SDGs×Technology Contest (高専GCON2024)		
	梅津 柚花 (5T)	
	佐川さくら (5T)	
	高田 奏 (5T)	
	丹野日万莉 (5T)	
	長岡 凌功 (5T)	協賛企業賞受賞
◎第3回高専防災減災コンテスト		
	佐藤 大夢 (5T)	
	塩見慎太郎 (5T)	
	高橋 明李 (5T)	
	根本のぞみ (5T)	
	馬場 未来 (5T)	最終審査会出場

◎高専インフラテクコン2024

チーム名「排水の陣」

小平 琉太 (5T)
門脇 真音 (5T)
小林 暖 (5T)
橋本 大知 (5T)
藤井 陸 (5T)

柳沼 祐輝 (5T)
大石 愛陽 (3T)
生田目将吾 (3T)
門馬 圭太 (3T)
佐藤 孝海 (2T)
七海杏太朗 (2T)

地域賞受賞

連合会主催のコンテスト等出場結果

■ロボット技術研究会

◎アイデア対決・全国高等専門学校

ロボットコンテスト2024東北地区大会

製作・調整協力：ロボット技術研究会学生

- ・Aチーム「四神獣」 大橋 ほの (2C)
鶴沼 瑛彦 (2M)
本間 龍太 (2M)

ベスト4、アイデア賞・特別賞受賞、全国大会出場

- ・Bチーム「隼艦」 佐藤 陸 (3E)
鈴木 元大 (3E)
荒木 結衣 (2M) ベスト4

◎アイデア対決・全国高等専門学校

ロボットコンテスト2024全国大会

製作・調整協力：ロボット技術研究会学生

- ・代表チーム「四神獣」 大橋 ほの (2C)
鶴沼 瑛彦 (2M)
本間 龍太 (2M) 1回戦敗退

■ソフトウェア研究会

◎第35回全国高等専門学校プログラミングコンテスト

競技部門

阿部 港 (5E)
常盤 海玖 (5E)
柳沼 孝太 (5E) 準決勝敗退

■都市デザイン研究会

◎第21回全国高等専門学校

デザインコンペティション2024 in 阿南

構造デザイン部門

大津留優空 (3T)
三瓶 蒼惟 (3T)
會田 光基 (3T)
松崎 太希 (3T)
田中妃万里 (3T)
鈴木 大翔 (3T) 第35位

表彰

●福島高専専攻科学業優秀賞

産業技術システム工学専攻

生産・情報システム工学コース2年 根本 結友
化学・バイオ工学コース2年 佐々木心優
社会環境システム工学コース2年 紺野 匠馬
ビジネスコミュニケーション学専攻
ビジネスコミュニケーション学コース2年 志賀 あみ

●福島高専専攻科研究活動優秀賞

産業技術システム工学専攻

生産・情報システム工学コース2年 立花 礼朗
化学・バイオ工学コース2年 佐々木心優
社会環境システム工学コース2年 遠藤 潤

●特別表彰

TOEIC成績900点以上取得者

機械システム工学科3年

Mohamad Faris Fitri Bin Mohd Azizi

電気電子システム工学科3年 Boudjemil Taha Maamar

化学・バイオ工学科3年 Enkhbaatar Sodbilig

都市システム工学科3年 Kwekwani Emmanuel

全国レベルの各賞受賞者

- ・国際的な学術専門誌への査読付き論文の掲載（採択）
産業技術システム工学専攻2年 石井 翔馬
化学・バイオ工学科4年 緑川 玲花
- ・高専GCON2024ファイナリスト賞・鹿島建設賞受賞
都市システム工学科5年 高田 奏
梅津 柚花
佐川さくら
丹野日万莉
長岡 凌功

●学会表彰

社団法人日本機械学会 畠山賞

機械システム工学科5年

山崎 一星

電子情報通信学会東北支部優秀学生賞

電気電子システム工学科5年

柳沼 孝太

電気学会東北支部優秀学生賞

電気電子システム工学科5年

齊藤 汐音

計測自動制御学会 優秀学生賞

電気電子システム工学科5年

荻津 桜子

日本化学会 東北支部長会

化学・バイオ工学科5年

蛭田 帆香

全国高専土木学会 近藤賞

都市システム工学科5年

青木 柚繁

●福島高専協力会長賞

機械システム工学科5年

内藤 禅

電気電子システム工学科5年

渡邊 巧望

坂本 冬威

辻 美紅奈

化学・バイオ工学科5年

鈴木 康介

藤原 優希

都市システム工学科5年

橋本 大知

藤井 陸

ビジネスコミュニケーション学科5年

佐藤 莉乃

鈴木ひかり

●福島高専同窓会長賞

化学・バイオ工学科5年

木村 泰地

電気電子システム工学科5年

上遠野啓太

高等学校等就学支援金

高等学校等就学支援金制度とは、家庭の状況にかかわらず、全ての意志ある高校生等が安心して勉学に打ち込める社会をつくるため、国の費用により、生徒の授業料に充てる高等学校等就学支援金を支給し、家庭の教育費負担を軽減するものです。

国立高等専門学校（第1学年～第3学年）も就学支援金制度の対象となっており、定められた所得判定基準をもとに就学支援金が支給されます。令和7年度4月以降の所得判定基準等の詳細については、本校からの文書・HP等によるお知らせを確認してください。

支給期間は原則として通算36月となっております。また、保護者の所得に応じて就学支援金の支給金額が変動することがあります。

なお、保護者等の失職、倒産等のやむを得ない理由により家計が急変した際、就学支援金の支給金額へすぐに反映されない場合があります。その場合、就学支援金「家計急変支援制度」の対象となる可能性がありますので、詳しくは学生課学生支援係にお問い合わせ下さい。

授業料免除制度

授業料の免除は、国による高等教育の修学支援制度に基づく免除と、高専機構による免除があります。

高等教育の修学支援制度に基づく授業料免除は、本科4・5年生及び専攻科生で、経済的理由により授業料の納付が困難かつ学業優秀と認められる者が対象です。学校での学力・人物選考を経て、日本学生支援機構により家計基準を満たすと認定された場合に、授業料の全額または一部を免除する制度です。また、令和7年度からは、高等教育の修学支援制度に「多子世帯の授業料無償化」が拡充され、多子世帯に該当する学生は、所得制限なしに授業料の全額免除を受けることができます。

高専機構による免除は、基準日（前期授業料については4月1日、後期授業料については10月1日）前6月以内に、学生の学資負担者死亡または風水害等の災害を受けたこと等により授業料の納付が困難と認められる場合に、授業料の全額または半額を免除する制度です。

高等教育の修学支援制度による免除・高専機構による免除どちらも、前期・後期ごとに学生本人による申請手続きが必要です。前期分は4月、後期分は9月が申請期間となっておりますので、必要な手続きについては、メール・HP等によるお知らせを確認するようにしてください。

お問い合わせは学生課学生支援係まで

■高等学校等就学支援金 ☎0246-46-0873 ■授業料免除制度 ☎0246-46-0736

行事予定(前期)

4月

3日(木) 入学式(本科・専攻科・編入学生)
4日(金) 始業式
新入生オリエンテーション
専攻科始業式
7日(月) 前期授業開始
9日(水) 全校・校外清掃日
11日(金) 特研オリエンテーション(専1)
17日(木) 定期健康診断(休講日)
26日(土) 公開授業・寮生保護者総会・
寮生保護者個別面談会
27日(日) 開校記念日

5月

7日(水)～9日(金) 専攻科推薦入試願書受付
10日(土)～11日(日) オープンキャンパス・春
16日(金) 専攻科推薦入試
26日(月)～30日(金) 前期中間試験期間

6月

2日(月)～4日(水) 前期中間試験期間
11日(水)～13日(金) 専攻科学力入試願書受付
21日(土) 専攻科学力入試
23日(月)～27日(金) 学級懇談会期間(オンライン)

7月

2日(水) TOEIC-IP(3年)
4日(金) 学生休業(公開授業日の休日振替)
5日(土)～6日(日) 東北地区高専体育大会
9日(水) インターンシップ事前指導会(4年)
12日(土) オープンキャンパス・夏
24日(木)～30日(水) 前期期末試験期間
30日(水)～31日(木) 編入学願書受付

8月

1日(金) 編入学願書受付
6日(水) 集会・教室整備
7日(木) 補講日
8日(金) 閉寮
8日(金)～9月23日(火) 夏季休業
10日(日)～16日(土) 学校閉鎖
24日(日) 開寮

9月

2日(火) 編入学試験
5日(金) 補講日
8日(月)～11日(木) 再試験期間
20日(土)～21日(日) オープンキャンパス・秋
24日(水)～26日(金) CBT試験
25日(木)～26日(金) 学科行事日(4年)
29日(月) 集会・専攻科集会
校内体育大会
30日(火) 校内体育大会

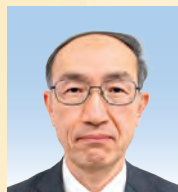
新任教職員紹介



校長 岡本 任弘

4月から校長を務めている岡本です。文部科学省の出身で、これまで教科書検定や大学の設置認可、学術振興、世界遺産や文化財に関する仕事をしてきました。ロンドンの日本大使館で勤務していたこともあります。

本校では、学生の皆さんが安心して学業に専念でき、必要な知識と技術を身に付けられる環境づくりに努めます。また、市や県、地元企業、近隣教育機関や関係機関との連携を強化して、本校を一層発展させたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。



電気電子システム工学科 教授 若松 孝

私は、4月に人事交流で茨城高専から本校電気電子システム工学科に転勤して来ました。9年前の平成28年から2年間、本校に勤めたことがあるので、今回2回目の着任になります。平成30年に茨城高専に戻り、その後も令和元年までの2年間は、双方の高専を併任して福島高専の講義も担当させて頂きました。従って、福島高専には5年ぶりに戻って来たこととなります。

ふたたび、私の出身地「いわき」にある福島高専に勤める機会を得まして、福島高専の学生や教職員の皆さんとの交流がとても楽しみです。どうぞ、よろしくお願いいたします。



一般教科(英語科) 助教 Campbell Martin Allen

My name is Martin Campbell, and I'm a new member of the Department of General Education. I've been an English teacher for about 15 years and have taught at Missouri State University and Ibaraki Christian University. I enjoy researching English literature, second language acquisition, biblical literature, and more. I'm so excited to meet everyone at Fukushima Kosen, and I hope we can practice English and talk a lot together!

一般教科(英語)を担当するキャンベル・マーティンと申します。アメリカで生まれ育ち、英語教師として15年間の経験があり、ミズーリ州立大学や茨城キリスト教大学で教えてきました。英語文学、第二言語習得、聖書文学などを研究しています。福島高専で皆さんにお会いできることを楽しみにしています。皆さんの英語学習をサポートできることを嬉しく思います。英語でお話しましょう! どうぞよろしくお願いいたします。



一般教科(国語科) 助教 照井佳那子

4月より一般教科(国語)に着任しました、照井佳那子と申します。秋田県秋田市で生まれ、学生時代を宮城県仙台市で過ごしました。秋田県高校教員を経て、この度、福島高専とのご縁を頂きました。

高い専門性と豊かな創造性が求められる環境でこれまでにない挑戦ができることを嬉しく思います。福島県の文化や自然にも興味があり、少しずつ地域の魅力も発見できたらと思っています。学生の皆さんが可能性を最大限に発揮できるようサポートをしていきますので、これからよろしくお願いいたします。



事務部長 矢野 耕一

本年4月1日付けで着任しました矢野耕一と申します。

千葉県松戸市出身で、文科省の他、大学や研究所、他省庁など様々な部署を経験し、初めての高専勤務となりました。

福島県は、母親が中通りの塙町出身で、幼少期には良く遊びに来ていました。仕事でも復興庁に出向した際、震災復興のため尽力させて頂きました。今回、福島高専に勤務することになったことはご縁だと思っています。福島高専のために、何ができるのか日々模索しながら、楽しく仕事をしていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



学生課長 玉田 邦彦

4月から学生課長を務めます玉田邦彦と申します。現職で管理職10力所目となりそれなりに年齢を重ねています。最近

は東北勤務が多く前職は秋田高専でしたが、福島は余り馴染みがなく新生活が楽しみです。なぜか普段の表情が不機嫌そうに見られがちだったので『明るく・楽しく・前向きに』を心掛け頑張りたいと思います。よろしくお願いいたします。



総務課施設管理係 専門職員 角田 昭

令和7年4月1日付けで東北大学より赴任しました角田 昭と申します。

郡山市出身で東北大学に25年、仙台高専(宮城・仙台電波時代も含め)に12年勤務しており、初めて福島勤務になりました。高専勤務は10年ぶりで楽しみにしています。

施設系専門職員ということで主に電気設備、機械設備を担当することになりますが本人は万事屋ですので、何でも気軽にお声がけください。

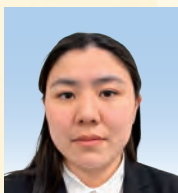
ついでにもう一つ、趣味でバドミントンをしています。昼休みには体育館に出発しますのでよろしくお願いいたします。



総務課地域連携係 課員 根本 拓典

令和6年10月1日付けで着任しました根本拓典と申します。

この度縁あって福島高専で働くことになり、学内だけではなく、企業や自治体といった様々な方と関わり、幅広い仕事をしております。その仕事をとおして、皆様の素晴らしい活動を目にすることも多くあり、嬉しく思います。皆様の教育や研究活動に少しでもお役に立てるよう日々精進してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



総務課総務・広報係 課員 重村 知宙

令和7年4月1日に採用になりました重村知宙と申します。生まれも育ちもいわき市です。2年前に本校を卒業後、福島大学へ進学し、その後本校で働かせていただくことになりました。大学では主に化学について学び、先進材料工学研究室に所属してました。

母校である福島高専で働けること、とてもうれしく思います。至らない点多々あると思いますが、1日でも早く貢献できる人材になれるよう精一杯努力しますのでよろしくお願いいたします。

第64回 入学式

第64回入学式 及び 令和7年度編入学式 並びに 第22回専攻科入学式 式辞（要約）

福島工業高等専門学校 校長 岡本 任弘

新入学生、編入学生、そして専攻科生の皆さん、御入学おめでとうございます。また保護者の皆様には、お子様の御入学を心からお祝い申し上げます。本日、この福島高専の門をくぐり、新たな学びの道を歩もうとする皆さんを、教職員、そして在校生一同、心から歓迎いたします。

皆さんは義務教育を終え、これから5年間にわたる専門教育に挑むことになります。本校では、理論と実践の両方を大切に、座学で学んだ知識を実験や実習を通じて深め、実社会で活かせる力を身につけてもらいます。この5年間は、単なる知識の習得にとどまらず、自ら考え、課題を発見し、解決策を見出す力を養うための大切な時間です。

皆さんにはこれから、数学・英語・国語等の一般科目と並行して、専門分野の知識や技術を学んでもらいます。その過程で、時には壁にぶつかることもあるでしょう。実験がうまくいかない、プログラムが思うように動かない、そんな経験をするかもしれないと思います。しかし、それらは決して無駄な経験ではなく、むしろ技術者として成長するための貴重な学びの機会です。

「失敗は成功のもと」と言いますが、技術の世界においては、失敗から学び、試行錯誤を重ねることが何よりも重要です。例えば、歴史に名を刻んだ発明家エジソンは、電球を完成させるまでに1万回以上の試行錯誤を繰り返したと言われていました。このことを彼は「失敗ではない。うまくいかない1万通りの方法を発見しただけだ。」と語りました。またAppleの創業者スティーブ・ジョブズは、「失敗を恐れたら大きな成功を収めることはできない。」と語っています。失敗を恐れずに挑戦し続けることが、新しい技術を生み出す原動力となるのです。

皆さんには、ぜひこの挑戦の精神を持ち続けてほしいと思います。授業での学びだけでなく、課外活動やコンテストなどを通じて多くのことに挑戦し、時に

は失敗を経験しながら、仲間と切磋琢磨して成長してください。高専の5年間は、自分自身を大きく成長させる貴重な時間です。

また高専での学びは、決して一人だけで完結するものではありません。実験やグループワークなど、多くの場面で仲間と協力し、意見を交わしながら学ぶこととなります。ここで出会う友人たちは、単なるクラスメートではなく、将来にわたって共に歩むかけがえのない仲間となるでしょう。

次に、専攻科の入学生の皆さん。皆さんは、本科5年間で修得したことを基礎に、さらに高度な基礎科目と専門科目を学ぶことになります。専攻科の先輩たちは、これまで、学会などで他大学の学部学生はもちろん、大学院の学生とも競い合ってきました。そして、専攻科2年の課程を終え、学位審査に合格すると、大学卒業と同じ学士の学位を得ることになります。そのあとには、技術者として社会で活躍する道、起業して新しい価値を創造する道、グローバルに活躍する道、研究者を志す道など、無限の可能性が広がっています。皆さんが自分の夢を掴んでいけるよう、また、後輩達の良き手本となれるよう、一層の努力をしてくれることを期待しています。

最後に、皆さんに伝えたいことがあります。それは、「時間を大切に、今できることに全力を尽くす」ということです。高専の5年間は、入学した時には長いように思うかもしれませんが、卒業する頃にはあっという間だったと感じていることでしょう。この長いようで短い時間をどう使うかは、皆さん次第です。

新しい環境に不安を感じることもあるかもしれませんが、しかし、福島高専には、皆さんを支えてくれる先生方がいます。悩んだときは、一人で抱え込まず、先生や先輩、友人に相談してください。皆さんの努力を支え、成長を応援する環境が、ここにはあります。

福島高専での学びが、皆さんの未来を切り拓く大きな力となることを信じています。どうか、夢を持ち、それに向かって努力を重ねてください。私たち教職員一同、皆さんの成長を全力でサポートします。

改めて、ご入学おめでとうございます。皆さんの高専生活が実り多きものとなることを心から願い、私の式辞といたします。



誓いの言葉



本科入学生代表

都市システム工学科
松本 蒼大

暖かな日差しとともに吹く風が心地よく感じられる季節となり、私たち新入生206名、編入生4名は、福島工業高等専門学校に入学します。

私たちは、こうして本校の入学式に出席できることを大変嬉しく思います。

これから始まる5年間の高専生活の第一歩を踏み出すにあたり、私たちは、夢と希望で胸がいっぱいです。

私たちが生きる社会は、少子高齢化や環境問題、世界情勢の変化など、大きな転換期を迎えています。こうした時代だからこそ、知識を深めるだけでなく、自ら考え、行動する力を身につけたいと思います。それぞれが目標を持ち、それを成し遂げるために日々精進してまいります。

私たちは、何事にも積極的に取り組む心をもって、共に高め合う仲間と授業や部活動からたくさんのことを学べるように頑張ります。学校や社会のルールを守り、先生方、先輩方のご指導の下、学力向上を図りながら、有意義な学生生活を送ることを約束し、誓いの言葉といたします。



専攻科入学生代表

産業技術システム工
学専攻
生産・情報システム
工学コース
高橋 那南

やわらかい春の彩を感じられる今日の良き日に、私たち新入生のために入学式を挙行していただき、校長先生をはじめ教職員の皆様方に、新入生代表として、心より御礼申し上げます。新たな学習環境下で仲間と共に福島工業高等専門学校の専攻科の一員として新たな一歩を踏み出せることを誇りに思います。

私たち20名は3月に本科を卒業し、本日、専攻科生として再び本校の門をくぐりました。5年間で培った専門的な知識と技術を基盤として、より高度な専門知識や実践的な技術の修得に励むことにより、「持続可能な社会発展に貢献するグローバルな次世代技術者」を目指します。

専攻科で学ぶことのできる喜びと、これまでお世話になった家族や友人、教職員の皆様方への感謝の気持ちを胸に、将来の社会発展に貢献できるように、幅広い専門知識を持ったグローバルな次世代技術者・研究者を目指し、ひとりひとりが日々精進してまいりますことをここに誓い、新入生代表の言葉といたします。

学校だより

Vol.

118

2025年5月発行
(2024.10~2025.4)

Contents

- | | | | |
|----|--------------------|----|----------|
| 02 | 専攻科修了式・
本科卒業式告辞 | 20 | TOPICS |
| 04 | 祝 卒業・修了 | 24 | コンテスト表彰 |
| 14 | 卒業生・修了生の進路 | 25 | 同窓会の活動 |
| 15 | 学生会 | 26 | 学生の活躍 |
| 16 | 退職者挨拶 | 29 | 新任教職員紹介 |
| 19 | 磐陽祭2024を開催 | 30 | 入学式 校長式辞 |
| | | 31 | 入学式代表挨拶 |

